

暖冬と桜

1 はじめに

2020年冬（2019年12月～2020年2月）の日本の天候は、東・西日本で記録的な暖冬となり、北・東日本日本海側で記録的な少雪となりました。

青森地方気象台の観測でも、2020年冬の平均気温は1882年の観測開始以来1位タイの1.4℃で平年より1.6℃高く、降雪の深さの合計は241cmと2005年に降雪の深さの観測が積雪計に変更されてから最も少なくなりました。

「桜の開花も記録的に早くなるんじゃないの？」という声も聞かれ、1956年の観測開始以降最も早い4月14日よりも早い4月8日の開花を予想している民間気象会社もあります。

さて、これまでは暖冬だと桜の開花は早かったのでしょうか？

2 冬の平均気温と桜の開花

図1は1956年から2019年までの、冬の平均気温の偏差（平年値-0.2℃との差、平年より高ければプラス）と桜の開花日の偏差（平年値4月24日との差、平年より早ければマイナス）を散布図上に示したものです。縦軸は平均気温偏差で上ほど高く、横軸は開花日偏差で左ほど早くなります。

図を見ると、左肩上がりで冬の平均気温が高いほど桜の開花が早くなる傾向が見られます。

ただし、よく見ると、気温偏差が一番大きかった年★は開花日偏差が+1、つまり、「一番の暖冬の年は桜の開花は平年より1日遅かった」ということになります。これは、2007年で2020年と並んで冬の平均気温1位タイの年です。

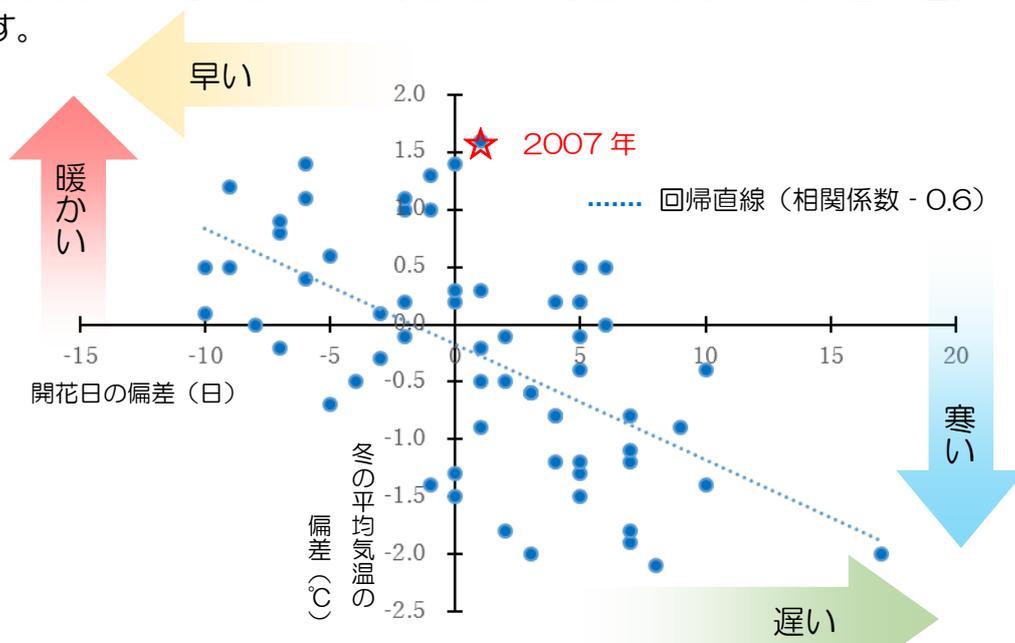


図1 冬の平均気温の偏差とサクラの開花日の偏差
(平年値は1981年～2010年)

2007年を詳しく見ると、平均気温の偏差は12月は+0.3℃、1月は+2.0℃、2月は+2.3℃と平年を大きく上回り、冬の気温として歴代1位となりましたが、3月は-0.1℃と、平年を下回りました。

そこで、図2に3月の平均気温の偏差とサクラの開花日の偏差を示します。これを見ると、3月の平均気温が高いほど桜の開花が早くなる傾向が、冬の平均気温以上にはっきり見られます。

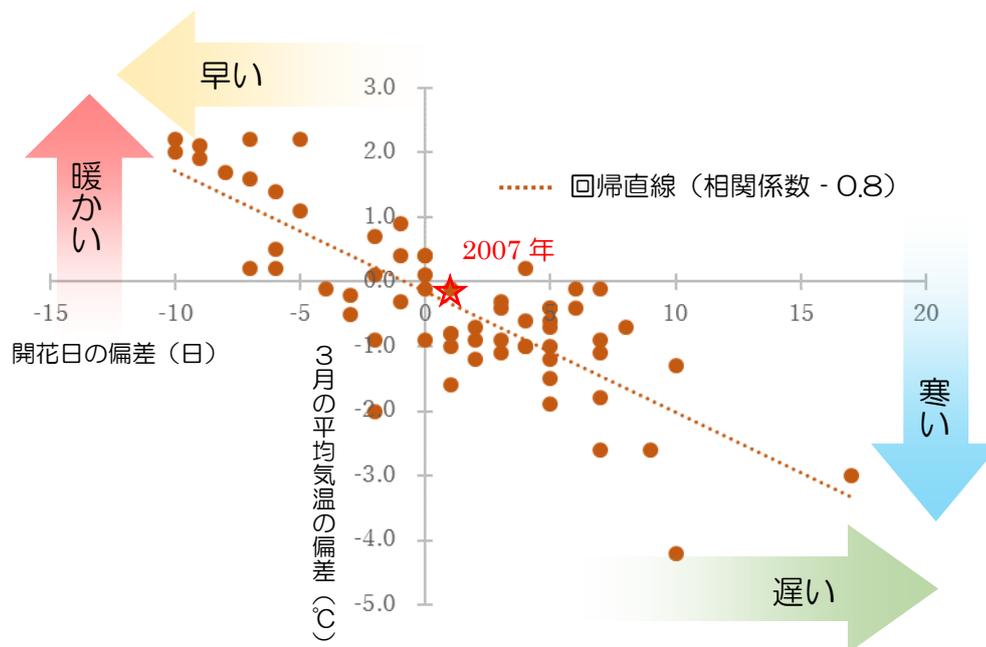


図2 3月の平均気温の偏差とサクラの開花日の偏差
(平年値は1981年～2010年)

3 まとめ

暖冬と桜の開花の関係を探ると、暖冬ほど桜の開花が早くなる傾向はある程度みられましたが、3月の気温の方がより関係が深いことがわかりました。また、データは示しませんでしたでしたが、冬と3月の平均気温がどちらも平年より高かった年で、桜の開花が平年より遅かった年はないということもわかりました。

3月12日発表の1か月予報では、東北地方の向こう1か月の平均気温は、高い確率80%ですので、桜の開花は平年より早まりそうだという意識を持って観測を行います。

(この原稿の作成 気象情報官)



国土交通省 気象庁 青森地方気象台
〒030-0966 青森市花園一丁目17番19号
電話017-741-7411



気象庁ホームページ: <https://www.jma.go.jp/jma/index.html>
青森地方気象台ホームページ: <https://www.jma-net.go.jp/aomori/>